



県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら



放射線科

放射線治療による緩和ケア

緩和ケアとは、がんやがん治療に伴う苦痛を和らげるためのケアのことです。なかでも、がんそのものによる身体的苦痛に対して、放射線治療がお役に立てることが多くあります。

「放射線」と聞くと怖いイメージを持たれる方もいらっしゃるかと思いますが、レントゲン検査やCT検査と同じように、照射される放射線を感じることはなく、1回の治療自体も10分程度寝台に横になっているだけで終了します。また緩和ケアを目的とした放射線治療の場合、副作用が出ててもほとんどが軽度で一時的なものです。

がんの骨転移による疼痛は、患者さんの生活の質を低下させます。放射線治療は、約60～90%の方の痛みを和らげ、そのうち約20～40%の方で痛みを完全に消失させることができます。治療効果を認めるまでに数日から数週間程度かかりますので、鎮痛薬と上手に組み合わせて放射線治療を行うことが大切です。

以前は2週間かけて10回の照射を行うことが多かったのですが、最近では1回で照射を終える方法の有効性も報告されています。当院でも1回(1日)のみの照射を行うことが可能であり、患者さんや介護するご家族の負担を減らすことができます。

また骨以外(リンパ節や皮膚、筋肉、肝臓など)への転移による疼痛や、がんからの出血、がんによる血管の狭窄、消化管の通過障害などにも、放射線治療が有効なことがあります。

費用面では、放射線治療には健康保険が適用されます。通院のみで治療を終えられることも多いですので、仕事と治療の両立もしやすいです。

(放射線科 主任医師 放射線治療専門医 高田 彰子)



小児科

 しょくもつ けいこう ぶか
 食物経口負荷試験について

食物アレルギーは、皮膚、消化器、気道などから感作された食物アレルゲンによって、体に不利益な症状が引き起こされることと定義されています。体の一部に蕁麻疹^{じんましん}がでるなど軽度のものから、アナフィラキシーと呼ばれる重篤な症状まで、食物を摂取することにより引き起こされる症状はさまざまです。食物アレルギーの耐性獲得に必要なものとして、皮膚のスキンケアなどで感作（通常は体に入っても問題ないものなのに、体の免疫が、悪いものとして攻撃する準備をすること）を予防し、経口免疫寛容（口から摂取した食品などの異物に対して過剰な免疫反応を起こさない）を発達させることが重要とされており、その方法として、**食物経口負荷試験**が行われます。

食物経口負荷試験とは、食物アレルギーが確定しているか、もしくは疑われる食品を単回または複数回に分けて摂取させ、症状誘発の有無を確認する検査です。食物経口負荷試験を行う目的として、

- ①食物アレルギーの診断を確定すること
- ②安全に摂取できる量を決定すること
- ③耐性獲得を確認すること

などがあげられます。

当院では、入院で食物経口負荷試験を行っています。アレルギーが疑われる食物の摂取量を設定し、少量から数回に分けて摂取し、症状出現に注意しつつ、慎重に行います。症状が現われなければ、陰性と判定し、自宅で週に2～3回摂取していただき、耐性獲得に向けて摂取量を増やしていきながら進めていきます。しかし、症状が出現した場合は陽性と判定し、時間をおいて再度食物経口負荷試験を行う方針としています。

また、生活管理指導表を作成することで、保育園や学校で安全な食生活を送ることができるように努めています。

（小児科 医師 萩尾 泰明）



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら